

市長と語る～まちづくり懇談会～中野方

日時：令和元年8月20日（火）午後7時～8時30分

場所：中野方コミュニティセンター

地域自治区会長・市長・市議会議員あいさつ

■会長 皆さんこんばんは。この懇談会は毎年あるが、中野方町は今年少しスタイルを変え、地域協議会メンバーを中心に開催した。懇談会なので、市長と直接語る場はなかなかないので、この場を有意義なものにしてほしい。市長、市の幹部の方には中野方町にお出かけいただきありがとうございます。町の実情を知っていただく、町民には市の実情を知ってもらう機会なので、意義ある懇談会になることを願っている。

■市長 地域自治区主催で懇談会が開催できることに感謝する。この会を執り行う会長初め役員の皆さん、御参加のすべての皆さんに感謝申し上げます。最後までよろしくお願いします。

■市議 今日は皆様御苦勞様です。日頃中野方町の地域活動、まちづくりに頑張っていただいています。そういうメンバーでの懇談会ということで大変期待している。

市におかれては、笠周地域振興計画に基づき、主要事業の飯地中野方線の改良を進めていただいている。県道中野方七宗線のインフラ整備も進めていただいている。中野方町のいろいろなまちづくりについても御支援、御指導いただいております、厚く御礼申し上げます。

今日はテーマを決めて、これから中野方町をどういうまちづくりで進めていくかという市長との語る場で、地元にとっては大変ありがたい機会だ。忌憚のない御意見を出していただき、市長と一緒に考えていくことになるのでよろしくお願い致します。意義のある懇談会となることを祈念する。

「はたらく」「たべる」「くらす」「まなぶ」の主要事業について

■市長 中野方町について。人口は平成17年の合併当時1,896人、今は1,551人。世帯数は500世帯が545世帯になった。生まれてくる子どもは、平成17年は7人で、今は12人いる。直近で8人が生まれた。昨年、一昨年は5人生まれ、引っ越した人もいて今は8人ぐらいいる。若干減っているが何とか踏ん張っている。ぜひ、このまま頑張って地域の皆さんでサポートしていただけるといい。

事業について。一つは、笠周地域振興計画の中でも位置付けられた市道飯地中野方線。今年も事業が進んでおり、工事は135mで4千万ほど。用地も940万ほど。勢井後橋のところも進んでいる。一部通行止めになっておりご迷惑をかけている。協力お願いします。

笠置山の川向林道の法面改良も着実に、平成 26 年度から令和 6 年度までの計画で、全体で 2 千万、今年度 200 万ほどの工事をしている。

笠周地域振興計画の進捗状況。概ね何らかの形で進んでいると思う。

それ以外でいくつかご案内する。

一つは、県道中野方七宗線に絡んで、中野方町 68 号線と 71 号線の排水の整備事業。下流側からやるので、71 号線は下から来て今年で最後になり、68 号線は下流側からいよいよ着手する。

中野方町 59 号線、学校の上のところの工事。今年は 40m を予定している。

農地の中間管理機構関連の圃場整備。面積 9ha でいよいよスタートする。今年度から令和 5 年度までの事業。

中野方救急分遣所。昨年スタートした平成 30 年度、全体で 70 件出動。今年度、4 月から 7 月に 28 件。前年対比で 86% 増。だんだん使っていただけるようになったと思う。お気軽にといっては失礼だが、なるべく使ってください。遠慮する必要はない。

グリーンピア恵那の跡地活用。笠置山の栗園。去年は台風で倒れて大変苦労された。何とか戻ったと先ほど鈴木社長に伺った。今年からは笠置山モーターパークということで、地元の皆さんにも御理解をいただき、ジムカーナとかヒルクライムの競技が進んでいる。今まで競技会 3 回、練習会 3 回で延べ 120 台の車が走った。何とか定着して、多くの皆様に御利用いただけるようにしたい。こういう形で経済効果を増やしていきたい。

市長と意見交換

■司会 本年度は地域でテーマを 2 つ設定した。それについて、市長を交え、地域協議会の役員と一緒に課題解決に向けて考える。役員以外で本日傍聴に来ている人は、2 つのテーマの意見交換が終了した後に意見をいただく時間を設ける。

テーマ 1. おきもりの今後について

■民生児童委員会長 現在中野方町では高齢化が進み、運転免許を持たない方や、運転をやめられる方が、昼間の買い物や病院への通院の移動手段の確保の課題を解決するという事で、平成 21 年におきもりという制度ができ、中野方町地内の移動に限定はされているが、無料の移送サービス運行を始め、もう 10 年になった。現在、運用はまめに暮らそまい会を利用の受け付け窓口としている。ボランティア運転者は現在 33 名登録されている。まめ暮らで当番表を作り、概ね 1 月に 1 回あるかないかだが、交代でそれぞれ運転に従事している。活動時間は 8 時半から 4 時ぐらいまで。1 日これぐらいの時間がかかる。日にちあるいは週によっては、たくさんあったり、1 人とか 0 というところもあるが、概ねかなりの利用者がある。

現在活躍している運転手は、団塊の世代が多い。70歳少し前から過ぎぐらいだ。この世代の人が引退する後は、人口も少ないということで、いつまでもこのボランティア方式では先が続いていかなくなると思っている。最近では高齢者のブレーキ踏み違い事故も多くなってきている。これまでおきもりでは人身事故もなく、少しこすったというのはあるが、運営してきている。今後高齢者がボランティアで運転するのも若干不安がある。

このまま今の方法でうまく続けていけるかどうか、現在の中野方町の実態だ。どのように進めていくか考えていく必要がある。

■司会 おきもりの利用者は高齢者が多い。高齢者代表として壮健クラブ会長から御意見をいただく。

■壮健クラブ会長 壮健クラブは会員数300名ぐらいで愛護事業、友愛活動などを行っている。当町でも高齢化率が41%強となり、最近中野方町でもスーパーがなくなり、日頃の買い物に不便さを感じており、高齢者の交通事故が多い中、おきもりの人と協力して何かいい方法がないか考えている。

■司会 民生児童委員の会長からは、ボランティアの運転手が高齢化している課題、壮健クラブの会長からはスーパーがなくなり町内移動のみなので不安がある、何かいい方法はないかという御意見があった。

おきもりの運転手で、交通安全協会の支部長から、高齢者の意見も運転しながら聞いてみえるかもしれないので、話を聴く。

■交通安全協会支部長 定年になって7年間おきもりを続けている。ちょうど10年なので、7年目。今話があったように、高齢者はおきもりの制度を大歓迎で絶対なくしてくれるなどいつも言われている。大変喜んでもらっている。ただ、残念なことに、中野方町だけの移動ということで、大きなスーパーもなくなり、買い物に恵那市街まで行きたいというのが利用者の希望だ。あるいは恵那病院まで行きたいと希望している。この点は、難しいと思うが、何かいい方法がないか議論していただきたい。

あと、車が10年ぐらいになっている。高齢者の乗り降りが非常に苦しい。脚の悪い人もいる。できれば低床の乗りやすい車に改善できないか、お願いしたい。

恵那市街に出ていく手段を非常に望んでみえる。路線バスとの関係も分かるが、いい方法がないか。

■司会 地域協議会の役員から意見があれば。

なければ、市の幹部から意見をいただきたい。

■市長 公共交通、バス、地域の移送については、今大きなテーマになっている。各地域からいろいろな要望をいただいている。実務的に副市長が主になっていろいろ動いている。

■副市長 今特に問題になっているのは、高齢者の事故。社会現象として問題になっている。いつまでも車を運転して地域に住めるかということが、各地域の懇談会で出ている。

市としても、やはりこの問題を解決しないと高齢者がずっと恵那市に住み続けることは難しい、あるいは、60歳になって帰って来る人があると市長は言っているが、この問題を解決しない限りは、恵那市で100歳まで住むかということ、そうはいかないと思っている。従って、この問題は恵那市全体として取り上げて解決していく問題だと思っている。しかし、今のところ、それに対する解決の方法があるということではない。従って皆さんと一緒にこの解決を図っていくことになる。

一番近い事例が、豊田市の旧小原村が、現在ソフトバンクとトヨタ自動車と一緒に、モネ・テクノロジーズという会社を作った。そこで実証実験をやっている。タブレット（携帯）を使って頼んで迎えに来てもらう、あるいは電話を使ってということをやっている。うちもこれらに入って、どうやっていくかということを決めていきたい。しかし、まだ解決方法が分かっていない。全国的に分かっていない。ソフトバンク、トヨタ自動車が出てきたというのは、うまくいかないので出てきたのだと思う。このことについては、しっかりやっていきたい。よろしくお願いします。地域の人たちも一緒に考えていただくことが必要だ。

それから、公共交通空白地有償運送のこと。運転手さんが言われたとおり、中野方町で自分たちの無償バスで恵那病院や恵那駅まで行けるかということ、そうはいかない。有償運送、路線バスを駆逐してしまう。それを動かすと路線バスがなくなってしまうことになるので、どうやって共存していくかが課題になる。いっそ、笠原地域全部が路線バスをやめてしまって、そちらに切り替えるという方法もあるかもしれない。どちらの費用が高いか、あるいは皆さんがやれるかという問題が出てくるかもしれない。時間をかけて解決策を見つけていく必要がある。

■司会 おきもりの車両については。

■副市長 どこも同じ問題を抱えているので、市として何かの解決はしないといけないと思う。持ち帰って検討する。

■司会 副市長から行政側の考えを聞いたが、3名から意見は？

■交通安全協会支部長 いつも「持ち帰らせていただきます」というといい返事が来ない。ほかのことでいろいろお願いしているが、よろしくお願いします。

■副市長 今は比較的持ち帰る場合は前向きに考えていくというスタンスだ。以前は結構「検討します」という言葉で濁していたが、積極的に考えていく。受け皿があるということが条件だ。

■司会 中野方町としても、ボランティア運転手が大きなネックになるので、町民としてもボランティア運転手の確保に頑張っていかなければならないと思う。副市長から前向き、積極的に検討いただけるということなので、ありがたい。

テーマ2. 中野方町の資源と観光交流人口の増加に向けて

■司会 第11区自治振興会長から発言いただく。

■第11区自治振興会長 先に一言お礼を述べる。ビジネスサポートセンターの松岡さん。本当に私たち中野方町の5団体にかかわっていただき、困りごと等、本当に丁寧に、毎月1度お越しいただき、相談をかけている。本当にありがとうございます。

本題に入る。

中野方町は非常に高齢化が進み、もう600人を超えている。その中で中野方町を継続するために取り組んでいることは、空き家対策委員会を、平成27年に設立し、移住定住に取り組んでいる。年間2件を目標にし、移住者を募集している。また、各地域に空き家の調査をしていただき把握し、いい物件においては空き家バンクに登録している。そして、少しずつ人口、また中野方町に興味を持つ人を増やしている。

また、中野方町は魅力アップをうたい文句に、一生懸命イベントに対しても移住者、定住者の相談窓口を設けて、多くの人に分かっていただくような状況をとっている。その中で推進しているのが農泊、田舎暮らし体験などを目標としている。

その中でも少し困ったことができています。興味を持っていただくことによって、何とかもう一度中野方町に来て、中野方町を見てもらう、そして泊まっていただく場所がないということだ。前回お話にも上がっていた、数年前に教員住宅の早期の払い渡しがしてもらえると、そこが拠点にできると思う。どうかそれを一つ解決してほしい。

中野方町の地域資源では、5団体が本当にすばらしい活動をしている。その5団体を何とか6次化まで向ける方法を皆さんで考えていただき、私たちだけではなかなか頭が回らないので、知恵をいただき、最終的には販売ができる場所を、何とか中野方町として、集まった観光の人たちにピーアールできたらありがたい。

観光分野の、観光交流、人口増加。中野方町には、笠置山の麓に望郷の森がある。その望郷の森で、今年7月は95名、うち50名が宿泊した。8月は昨日現在で195名、うち75名が宿泊した。森と食のフェスティバルを8月11日に開催し、50組100人弱のお客様に入山していただいた。何とかこの望郷の森をもっと活用できる方法はないか。できることなら、何とかサイクリングロードができないか、バンガローの整備ができないかという取り組みをしていけるとありがたい。

望郷の森では、どうしても水がなく、泊まり客が減っている。何とかそこに水の検討をしていただくとか、相談をしていただけるとありがたい。

交流人口を増やすのはなかなか難しく、何とかいい方法がないかと考えているが一向に知恵が浮かばない。どんなことに力を入れたらよいか、どんなことに磨きをかけたらよいか、何が必要か、一度皆さんで議論していただきたい。

■司会 第11区自治振興会長から地域の交流人口の課題として盛りだくさんの課題を出し

ていただいた。農泊、地域資源を生かした 6 次化、望郷の森の整備、その水の問題、どんなことに磨きをかけていったらいいのかなど。笠置山で大変大きな開発をしているのが恵那笠置山栗園。その社長の、第 1 区自治振興会長から御意見をいただく。

■第 1 区自治振興会長 皆様、御苦勞様です。市の皆さんには栗園に御理解をいただきありがとうございます。

第 1 区自治振興会長ではあるが、笠置山栗園の責任者として活動している事業の報告や、連携している団体とのかかわり、あるいは経営の見通しという問題について話をする。

私たちの事業は、目的として、一つは雇用を創出して地域を元気にしていくこと。2 つ目が、恵那栗を特産品として皆さんにたくさん作っていただいて、さらにはブランド恵那栗に確立したい。3 つ目は、観光栗園、あるいはイベントを企画して、栗園に遊びに来てもらう。今は観光栗園だけの企画だが、これからはいろいろとイベントを開催して、菓子屋さんを呼んだり、森で子どもたちに遊んでもらったり、いろいろと夢はたくさんある。少しずつ取り組んでいきたい。

また、交流では中野方町のイベントはもちろん、他市町村のイベントに焼き栗やむき栗を持って参加している。都会の皆さんに私たちがやっている事業を知ってもらうことが大きな目的だ。

スローガンとして、「目指そう日本一の栗園」を合言葉にしている。

収穫量は、2025 年頃には目標の 45 トンの栗が収穫される見通しがついてきた。安定した収穫が 30 年ぐらい続くので、まずはそこまで何とか頑張らないと、単年黒字でまだそこまできれないが、あと 2 年経てば黒字を迎えるということで頑張っている。

今年から恵那市内の菓子屋と契約販売が実現した。まだ発表の段階ではないが、超特選栗というブランドの価格まではいかないが、それに近い金額が約束されると思う。出荷量も契約した形なので出荷も安定してくると思う。地元のお菓子屋さんには、地元で 2 割 3 割しか調達できていないと言われており、九州、茨城、四国から残りの 7 割から 8 割仕入れられている。お菓子屋さんも、地元の新鮮な良質な栗を求めている。一日も早く期待に応えられるよう頑張っている。

次は、団体連携でいうと NPO 法人まめに暮らそまい会と連携して、冷凍むき栗を加工して、手軽に使える栗として好評いただいている。それから、ワーキングホリデーにも、10 名ぐらい募集をかけている。現在 2 名の申し込みがあった。栗拾い、栗きんとんづくりツアーも募集する。観光協会と連携で募集する。今日も名古屋市に行って新聞社 3 社ほど巡り、記事を書いてほしいとピーアールしてきた。そのツアーは、不動滝や棚田、まめの木の方たちと、食事をしたり栗きんとんを作ったり買い物をしたりということ。それから、ワーキングホリデーは農泊の方たちにお世話をいただいている。そうした連携を取って、何とか活性化していきたい。

最後に、当面の課題として2点ほどある。1つ目は、収穫量が増えてきたので、収穫後の選別作業が今年は何とか手作業でこなせるが、来年度はとても手ではこなし切れないので、選果機、ラインで選果作業ができるものを、市農政課からアドバイスをいただき、機械化していきたい。

2つ目が、観光栗園やイベントに来ていただいたお客様、グリーンピアで行なわれているモータースポーツのジムカーナ、ヒルクライムに来ていただいたお客様は、仮設のトイレで非常に不便を感じている。きれいな建屋のトイレがどうしても必要だ。また行きたいと思われたとき、それは最低条件だと思う。市の皆様の良きアドバイスを何とぞ承りたい。

■司会 町内の団体、法人と連携しながらワーキングホリデーや栗拾いツアーを開催する。その中でトイレの設置、選別機の機械化が課題だという話をいただいた。

地域協議会副会長からも、地域協議会としての立場で発言いただきたい。

■地域協議会副会長 地域協議会の立場というよりも、役員としていろいろな行事に参加した中での感想です。

笠置山モーターパーク、モータースポーツの拠点化ということで、今年3月にヒルクライムを私も見た。参加の車も約70台あり、小坂市長、古屋衆議院議員を初め多数の観客もみえて、非常に盛り上がった大会だった。6月には愛知県のサイクリング協会が、第1回ということで参加人員は少なかったが、川向林道を利用して、自転車によって笠置山までヒルクライムするという形のイベントがあった。地域が協力して、継続的なイベントとして盛り上がってくれとありがたい。

3月には笠置山の麓を利用して、市長も開会式に出られたが、学生連盟主催によるオリエンテーリングがあった。中野方町に約千名以上の若い大学生が来て、その姿を見ているだけでも何となく元気になるような感じがした。

また、9月15日には、オリエンテーリングのグループでリレーするような競技があり、同じく千名ほどの方がまた訪れてくれるということだ。楽しみにしている。

このように数多くのイベントがこの地域でできるということは、非常にこの笠置山周辺の環境がいいのと、とても魅力的な場所ではないかと思う。この地域でもヒルクライムの場所も壮健クラブが草刈り、清掃、川向林道も財産区、観光協会が定期的に草刈りや清掃をしている。また、森林も、財産区と柚組が計画的に伐採等を行って、環境の維持に努めている。この地域において、そんな形で何とか協力してたくさんのお客さんを招き入れて、地域の交流人口を増やしてこの地域の産業の活性化を図っていきたく思っているが、なかなか資源、マンパワーも難しい。この魅力ある地域の資源を、市としてどんな形で、ソフト面、ハード面を含めて、何とか整備していただけるように、私としては協力をお願いしたい。

■司会 これらの件に関して役員からご意見があれば。農業振興協議会長、いかがですか。

■農業振興協議会長 先ほど豚コレラの話が出たが、中野方地区全域でワイヤーメッシュを張る事業を始めた。おかげで一番難所を恵那市の職員、県庁の皆さんに大変出ていただいて御苦労をかけたことを御礼申し上げる。

農業振興協議会としても、地域の振興について、第3期になる農業振興計画を今後策定していく計画なので、今まで出た意見も踏まえて、できるだけ金のかからない補助事業を集めていきたい。市にも相談をかけているが、協力をお願いしたい。

■司会 ほかに意見がなければ、市からお話をいただきたい。

■まちづくり企画部長 いろいろ中野方町の資源と観光交流人口の増加に向けてお話しをいただいた中で、グリーンピア跡地のモータースポーツの関係の絡みで、若干の情報提供をしたい。

今年に入って、3月のヒルクライムから始まり、ジムカーナ。先週の日曜日は3回目だったと思うが、年内にジムカーナはもう1回予定されている。今年3月開催のヒルクライムの参加者からも非常に好評だったということで、主催した人もぜひまた来年も同じ時期に計画したいという話もある。モータースポーツの聖地といったところもある程度目指している中で、そのほかにもいろいろなモータースポーツの関係者にもぜひ利用してほしい。たとえばクラシックカーレースやミーティングで人寄せができてにぎわいが創出できるような取り組みもしていただけるようなということで、市としてはピーアールもしている。

そういった中で、世界ラリー選手権(WRC)の関連は、昨年度から招致準備委員会が結成されて活動してきた中で、残念ながら今年は見送り、開催延期になっている。最近の情報では、来年度はほぼ確定、まもなく発表ということだ。まだ表だって正式には言えないという招致準備委員会の状況ではあるが、ほぼ決まっているということだ。来年11月頃に笠置山周辺を走るということだ。正式発表されて以後、正式に地元の皆様への説明や、地元にも協力いただかないと世界大会レベルのイベントはできないので、そういったことも予定しながら、要望にあった、グリーンピア跡地でのトイレは、観光栗園の利用者にも利用していただけるように、トイレ設置は考えていきたい。

■副市長 教員住宅の件。払い下げるという方針は決まっているので、あとは取り壊し、解体費用と同額の補助額で改修してもらうことになっている。できるだけ早く解決する。

選果機。応援するつもりなので、順次やっていく。

サイクリングロード、バンガロー、オリエンテーリングをやっているという話が出た。ただ、市として施設を造るということは非常に心配している。どうしても管理費、改修費が要る。本当にランニングの収支が合うのかどうか。地域としてそのことも一緒に考えてほしい。市がやればいいということではなくて。市全体として施設はもう造らないという方針で、ほとんど取り壊している。その中で新たにバンガローなどを造っていくとすると、収支はどうだということが出てくる。御理解をお願いする。

車の話をさっきしたが、市として条件がある。10年以上経っていて10万km以上走っていないと、新たなものを購入しないということ。それでもどうしてもということであれば、何か理由をつけてやってほしい。副市長はそれを管理する立場だ。規制する方だ。財政の規律はやる。

■市長 観光でブランド化しようとかピーアールするにはどうするかという話もあった。市もいろいろ持っている。ビジネスサポートセンターを利用してもらうのもいいし、今年からは広報に、メディアで、たとえばSNSやウェブサイトを使った担当者も置いたので、そういうところに御案内いただいてご活用いただくのもいいと思う。

それ以外にも、こんなところがあるということで、研修に行きたいとかいうことなら、補助金のメニューも用意しているので活用してほしい。

笠置山のキャンプ場。感想を申し上げる。笠周地域振興計画を立てられたとき、飯地町が、飯地高原自然テント村を再開発したいと手を挙げた。最初は単純にキャンプ場を再度作りたいたいという計画だった。さすがに収支も立ててないし、地域の皆さんが全体の気持ちとしてまとまってない中でこれをスタートしていいのかと、少し時間を置いて検討していただいた。そうしたら、飯地の皆さんは、北軽井沢にあるスイートグラスさんとコネクションを取って、そこにすごく勉強された。結果的に飯地の地域の皆さんが一つの気持ちにまとまった上で、運営する人を見つけて、収支も大体見通しが立つ中で、こういうものを作りたいたいと決めた。それからはずいぶんうまく動いているように見える。昨年半分できた時点で仮オープン。今年はグランドオープンした。非常にいい形で動いている。

南の方では、串原も温泉施設のリニューアルと合わせてキャンプ場の一部リニューアルをした。そちらは逆に、もうちょっと近代的にということで、温泉があるので、電気をキャンプサイトに引いたりトイレを直したりした。結果的にお客様は大勢来るようになっていく。先ほどのWRCの話ではないが、これからキャンプやアウトドアは、見る観光から体験する「コトの観光」という意味で非常に可能性があると思う。望郷の森キャンプ場も非常に可能性があると思う。できれば中野方町全体で考えていただくのがまず一つ、それからほかの地域とうまく連携もして、1泊はこっちで、1泊はあっちでというようなことも含めて特色を出していただいた上でやっていただけるとありがたい。まずは地域の中で、どんなキャンプ場が本当にいいのかも議論いただく中で、意見をまとめていただきたい。

■司会 御意見をいただいた3名から意見があれば。

■第11区自治振興会長 私たちの思いを分かっているような気がする。私たちが思っていることは、やはり先に笠周3町が1つになって、本当にコラボしていかないと。人口は絶対減っていく。高校卒業とともに減っていく。どれだけ中野方町に若い子を取り入れたとしても、18年先には2人になってしまう。そこを考えたとき外からの観光人口を増やしてにぎわうまちを作ることが一番大切だと思う。今日は本当にいい意見交換だった。

■司会 このテーマについてほかにご意見は。

■民生児童委員長 今回のテーマとちょっと外れるが。副市長から、車の更新のことがあった。10年以上、10万km、両方クリアしないとだめということか。

■副市長 市としてそういう考え方を持っているだけで、必ずしもそういう考え方に中野方町も合わせなければだめだと言っているわけではない。理由をつけて考えないと難しいと思う。必ずしも10年以上、10万kmじゃないとだめということではない。市の公用車はそういう考え方だということだ。市の公用車と地域の車とはちょっと違うと思う。その違いについて理由をつける必要がある。

■民生児童委員長 走行距離は中野方町しか動かないので10年乗ってもさほどいかない。恵那市街まで行けば簡単にできるが。

■司会 傍聴に来られている方から意見があれば。

ないようだ。本日はありがとうございました。皆様方の意見を中野方町のまちづくりに活かしていきたい。市長からも話があったが、中野方町全体で考えて地域と連携を取ってということだ。第11区自治振興会長からも、笠周3町でという言葉もあった。今後、町全体で、また笠周3町で取り組んでいけたら。そういうふうに皆さんで考えていきたい。

市長お礼のあいさつ

■市長 本日はありがとうございました。活発に意見をいただきありがとうございました。地域懇談会は6月中旬から始まり今日が10カ所目で、残り3カ所で8月中には終わる。後半に入った。今回は口の字になって役員の皆様と顔を見合わせながら歓談できたことを大変嬉しく思う。

いただいた意見はまとめて担当と調整して、また御連絡する。今日この場では言えなかったことがあれば、振興事務所長、担当課長、部長に届けてほしい。いつでも皆様の意見を伺い、それに対して何らかの反応をしていく心構えだ。

■司会 これで閉会する。

[閉 会]